



| | | |
|--|---------------------------------------|---|
| <p>たくましく 心豊かな 地球市民</p>  | <p>瞳かがやく 附属松本中の子ら</p> <h1>すずかけの森</h1> | <p>令和5年5月8日（月） 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だより No. 2</p>  |
|--|---------------------------------------|---|

新緑がまぶしい季節となりました。附属中にも元気な生徒たちの声が溢れています。学び合いの中から生まれる明るい声、体育館に響き渡る歌声、朝や放課後に交わされる挨拶や、休み時間の友との会話。様々な声の中から笑顔が生まれ、附中全体が活気に満ちています。



附属松本中学校で学ぶということ ～中島 健 副校長先生のお話より～

皐月、5月を迎えました。新緑が本当に美しいですね。明日からの連休中の5月6日は、二十四節気でいうと「立夏」です。夏が立つと書くように、夏の気配が感じられ、陽気も増してくる時期です。暦の上では、緑が茂り、田植えや種まきなどの畑仕事が始まる頃をいい、立夏から夏に入る初夏のことを指すそうです。暦の上では、もう夏が始まるんですね。

新型コロナウイルス感染症の予防はもちろんですが、これからの時期は熱中症の予防にも十分気を付けて生活をしていきたいと思います。水分補給を大切にしましょう。

さて、新学期が始まり1ヶ月程が経ちました。校舎の様々なところで、今日も皆さんの「学び」が続いています。校舎内外を歩くと、至るところに皆さんの明るく元気な声が響いています。各教室等では、皆さんの新学年での学びが、前向きに着々と進んでいて嬉しいです。



しばらく前のことになりますが、4月7日の生徒会対面式でのことです。新入生代表の生徒が、挨拶の中で「中学校生活でまず頑張りたいのは『勉強』であること。今はまだイメージとしてもっている中学校での生活だが、実際に生活していく中で、現実のこととして体験していきたい」という内容を語ってくれました。1年生の皆さん、この1ヶ月あまり、附属松本中学校で過ごす中学生としての生活のなかで、毎日の勉強はどのように感じられていますか。

先々週の黒板の詩には、「学ぶということ それは・・・」と題して書かれていましたね。皆さんにとって、とても大切な投げかけであると感じています。「それは」のあとに皆さんがどんな言葉を続けてくれるようになるか、とても楽しみです。

この3月に本校を卒業した先輩は、卒業式での挨拶で次のようなメッセージを残してくれました。

「附中生である誇りを感じる場面は日々の学習のなかにもありました。授業や総合的な学習の時間において、進んで仲間と意見を交換することで一人では気付けなかった見方を見いだすことができ、教室の外に出て五感を使った体験をすることで多くの発見を得ることができました。当たり前、何気なくそこに存在しているものは、なぜそうなのかといった本質的な問いを持ち、答えを探っていくことはとても大切だと感じました。たとえ答えを見つけることができなくても、真剣に考えることに意義があるのだと思います。」

また、昨年度の夏休みに、松本市で行っている姫路市の中学生との交換キャンプに学校代表として参加した

3年生が、コロナ禍のためにオンラインで行った交流会を振り返って次のように感想を語ってくれました。

「オンラインであったが、山賊焼きを送って食べてもらったり、何かしようとする、すぐにアポを取って取材に行ったり、やろうとすれば不可能なことはないんだなあ、と思った。

すぐにあきらめるのではなく、こんなことはできないだろうか？と考えて行動に移していくことが大切だと思った。」

入学して間もない1年生の生活記録には、学習についての次のような文章も載っていました。

【1年生の生活ノートより】

- ・社会で世界地図を描いた。本物を見たら自分のものと全然違ってびっくりした。何となく分かっているつもりになっていたことが分かった。みんなの描いた地図も次回見れるから楽しみ。
- ・体育で動画を見ながら自分の走りのダメなポイントを見極めるのがものすごく楽しかったです。どうしたらできるようになるか「科学」の理論で考えることもまた楽しいと思いました。
- ・音楽で校歌の練習をした。それもただ歌うだけじゃなく、リズムが分かるように何度も手拍子をしながらだったので、新しいなと思った。先生がとても熱心でした。
- ・理科で何の液体か正体を突き止めるために、自分たちで実験方法を考える授業がありました。班の人たちと協力しながら実験を進めることができ楽しかったです。
- ・技術で新聞紙4枚でどれだけ高いタワーを設計できるかやりました。たくさんの方を書いたけど、なかなか立ちませんでした。もっといい工夫がないか探してみようと思いました。

私は、4月最初の始業式で、今年度大切にしたいこととして、次のような言葉を皆さんに伝えました。この問題を解決していくのに、自分が置かれたこの状況で「何ができるのか。どうやったらできるのか」と常に前向きに取り組んでいる皆さんです。今年度も、そんな頼もしい皆さんの姿を楽しみにしています。

今紹介した1年生の振り返りは、先に紹介した先輩に負けなくらい、「何ができるのか。どうやったらできるのか」を一生懸命に求めていこうと取り組んでいる姿の表れだと思います。1年生がこんな姿を見せてくれているのは、きっと2、3年生の先輩が、日々の学校生活で「何ができるのか。どうやったらできるのか」を求めている姿を実際に見せてくれているからだと思っています。

来月の6月1日(木)からは、皆さんとの学びをとっても楽しみにしている教育実習生の先生方がいよいよ本校にもいらっしゃいます。「何ができるのか。どうやったらできるのか」と常に前向きに取り組む姿に、より一層磨きをかけて、迎えましょう。

